

九州北部豪雨により被害を受けられました皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。暑さ厳しい中、一日も早い復旧をお祈りいたします。

現在会員登録数 2,336 人さま。次号は 8 月 22 日発行の予定です！

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 83

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● Twitter はじめました

当財団公式 Twitter をはじめました。いろいろな情報を発信していきます。フォローしてください。 [https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News)

● 国際講演会の参加者募集

「タンザニアの絵本作家ジョン・キラカ自作を語るーバオバブの木の下で」

講 師：ジョン・キラカ（絵本作家・画家・ストーリーテラー）

日 時：7月29日（土）午後1時～4時

会 場：大阪府立中央図書館 2階大会議室（東大阪市荒本）

通 訳：松下宏子さん（関西大学ほか非常勤講師）

対 象：中学生以上

定 員：80名（申込先着順）

参加費：1,000円

主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団／大阪府立中央図書館

協 賛：サントリーホールディングス株式会社／パナソニック株式会社／

株式会社富士通システムズアプリケーション&サポート／

ムサシ・アイ・テクノ株式会社

申込み、詳細は、大阪府立中央図書館のHP↓↓

<http://www.library.pref.osaka.jp/site/jibunkan/event2017.html>

● 「おはなしモノレール」参加者募集

大阪高速鉄道「万博記念公園駅」から「彩都西駅」まで、貸切モノレールに乗って、車内で絵本や「おはなし」を楽しみ、彩都の会場では「人形劇」を観ていただくお子様向けのイベントです。

5歳から小学校3年生までのお子様と保護者の方、あわせて240人を募集し

ます。9月16日(土)で、参加費は、お一人500円(大人・子ども同額)です。申込締切は9月4日(月)必着。詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/01\\_kids/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html)

●「第34回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日(火)です。詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html)

● 研究紀要の原稿募集

当財団では論文集「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第31号の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/06\\_res-pub/04\\_journal/boshu.html](http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html)

◇「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要 第30号」を販売しています。

発行：当財団 2017年3月 A5判156頁 1,400円+税

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

---

【2】コラム

---

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ? Yasuko's & Takeo's Talk

\*\*\*\*\*

『100時間の夜』アンナ・ウォルツ/作 野坂悦子/訳 フレーベル館 2017年3月  
対象年齢：中学生以上

あらすじ：オランダに住む14歳のエミリアは、校長先生である父と17歳の女生徒とのスキャンダルをSNSで書かたてられ、一人でニューヨークへ家出をする。予約した宿は詐欺で存在しなかったが、その住所に住む15歳セスと9歳アビーの兄妹、指の怪我のために失業中の17歳のジムと4人で大型ハリケーンの中、セスたちの家で100時間を過ごすことになる。そして、それぞれが抱えている問題が明らかになっていく。

Y：エミリアにとっては父のスキャンダル、SNSでの中傷、潔癖症、セスとアビーにとっては父親の死、ジムにとっては失業とそれぞれが問題を抱える中で、ハリケーンで電気も水も使えない極限状態が描かれています。

T：エミリアの一人称で語られる追い詰められた状態にリアリティがありました。その切実な中で生まれる会話のユーモアが読み手をほぐしてくれます。

Y：特に9歳のアビーの率直さ、人なつっこさが際立っていました。

T：アビー、好きです。ハリケーンによって、暗闇がもたらされ、セスたちの家は子どもだけの避難所になりました。

Y：SNSによって全てがあからさまになる状態から、暗闇によって、手探りで自分の感性を信じて人と人がつながっていく。直接かわす言葉や空間を共有することで人間関係を築いていく。そのことの意味をうまく象徴的に描いているなどと思って読みました。

T：エミリアは潔癖症で、誰も触ることができず、食べ物を共有することもできなかったのが、少しずつ変わっていきます。最後にセスと別れる場面で、わざと電気を消しますが、避難生活が暗闇に守られてきたということがよくわかります。

Y：エミリアは恋愛についても観念的に考えていたのが、セスとジムを一人の人間として見るようになります。

T：セスとアビーは父親の死について、ようやく話ができそうになり、ジムは故郷で高校に戻ることを決意します。しかしながら、エミリアと両親の関係という意味では、かなりオープンエンドの作品だと思います。

Y：有名な画家である母と孤独を感じている父はニューヨークへ飛んできてエミリアと再会し、エミリアは父の問題に関してごまかさず、向き合おうとします。そういう意味では、一定の解決はあったようには思います。

T：それでも、エミリアたちの家族がどうなるのか、どこにどう住むのかは、読者の想像にゆだねられ、ヤングアダルト作品らしい終わり方だと思いました。1981年生まれの若い作家のエネルギーを感じながら一気に読んだ作品でした。

\* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

第23回「フランドン農学校の豚」

肥育される苦悩と屈折

前回本メルマガ（NO.82）で取り上げた「ビジテリアン大祭」には、肉食派から“豚は死のような高等観念を持たない”とする主張が展開されます。一方、本作「フランドン農学校の豚」には、学校の都合で不条理な死を迫られ、それを受け入れられずに怯え煩悶する豚が描かれています。

“ごく流暢な人間語”を操り、計算もでき、また人間並みの幸福や絶望も感じる豚。農学校で飼われていたこの豚のもとに、ある日校長がやって来ます。前月に公布された家畜撲殺同意調印法に基づき、死亡承諾書への押印を迫ったのです。一度は拒否するも、二度目には校長から次の言葉を投げつけられます。

〈おい。あんまり勝手を云うんじゃない、その身体は全体みんな、学校のお陰で出来たんだ。これからだって毎日麦のふすま二升阿麻仁二合と玉蜀黍の、粉五合ずつやるんだぞ、さあいい加減に判をつけ、さあつかないか。〉

すっかり怯えた豚はやむなく捺印。心労から痩せたところに強制肥育され、やがて殺されてしまいます。

食べられる（殺される）側を描いたものとして、「よだかの星」や「なめとこ山の熊」などと同系譜と考えられますが、しかしこれらの作品に存在する

“命を奪う行為への自覚と気づき”（本メルマガ NO. 81 参照）という視点は、本作には見られません。

〈私儀永々御恩顧の次第に有之候儘、御都合により、何時にても死亡仕るべく候〉という死亡承諾書の文言や、〈その身体は全体みんな、学校のお陰で出来たんだ〉という校長の言葉に、〈日本的共同体の支配原理〉を見るのは見田宗介です（『宮沢賢治 存在の祭りの中へ』1991年）。

つまり、豚の人生は〈前払い〉されており、その生を自ら選択するのは〈恩知らず〉というわけです。この論理のもと、〈恩愛の両義性〉を指摘する見田は、両親により注がれた愛情が仮に純粋なものであったとしても、それが賢治の人生を拘束・抑圧する限りにおいて、農学校の校長の脅し文句と同様の働きをすと述べています。

英国の品種名に由来する〈ヨークシャイヤ〉として、人間用に改良された“豚”を描いた賢治。長男として嫌悪する家業への適応を迫られるなかで、肥育され、飼慣らされているという苦悩と屈折が、この悲しい物語の根源なのかもしれません。（ペ吉）

（本文の引用は、新潮文庫版『新編 風の又三郎』によりました。）

\*\*\*\*\*

### 《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 83

\*\*\*\*\*

その11 さまざまなご質問にお答えします (1) おはなし会について

今回から、本メルマガ連載や講座等でお寄せいただいた質問にお答えしていきたいと思います。細かいことでも結構ですので、日頃疑問に思われていることをお寄せください。

質問：おはなし会には、テーマは必要でしょうか。

絶対にテーマがなければいけないとは思いませんが、おはなし会の中で読まれる本や語られるおはなしがばらばらだと一つのまとまりとして楽しむことができないと思われます。そのためには、プログラム構成が必要です。

初心者の場合は、どのように絵本を選べばいいか、悩むことも多いと思いますので、季節や語られるおはなしの内容に関連したテーマの本から選ぶことにすると決めると、絵本が選びやすいのではないかと思います。また、テーマが決まったおはなし会を行うと、同じテーマをさまざまな角度から考えることができます。

一方、テーマにこだわりすぎて、子どもに伝えたい本が読めない、おはなし会にふさわしい絵本を選べないということになれば、本末転倒です。おはなし会をする人どうしでテーマを決めるかどうかをしっかりと話し合うことが必要だと思います。

\* 次号は「その11 さまざまなご質問にお答えします (2)」の予定です。

ぜひ、ご質問やご意見をお待ちしております。（Y）

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

姫路文学館で9月3日まで開催されている特別展「まど・みちおのうちゅう」  
に行ってきました。

最初のフロアの「まど・みちおの生涯」では、幼少期から2014年に104歳で  
亡くなるまでの生涯が、写真や掲載誌、手書きのノート、日記、原稿、カッ  
トの原画などで紹介されています。

「文芸台湾」という雑誌に掲載された、祖父のもとに一人残された5歳から  
9歳の頃の生活を回想した散文詩「幼年遅日抄」にまどさんの原点を感じま  
す。童謡詩人を志して、「コドモノクニ」や「動物文学」などに投稿された  
20代の頃の作品や、戦争で入隊していた頃の日記、シンガポールの捕虜収容  
所で作った多数の短歌、生涯悔やんでいたという「戦争協力詩」の原稿もあ  
りました。

戦後は「チャイルドブック」などの編集者を経て、50歳の頃に退社して創作  
活動に専念し、それから50年以上も詩人として活躍されていたことに驚きを  
感じました。「ドロップスのうた」などの童謡の詩を何度も推敲した跡が見  
られる原稿が残っていて、思わず心の中で口ずさみました。

「まど・みちおの絵画」のフロアには、主に50代前半に描かれた抽象画が展  
示されています。「少女の顔」というタイトルの絵は、丸の中に三角や直線  
で描かれていて、じっと見ていたら微笑んでいるように見えてきて、いいな  
と思いました。「うお」という絵は、並んだ三尾の魚が太い線を使って体が  
透けたように描かれていて、生命のはかなさと力強さを表しているのでは  
うか。まどさんの詩にも通じるこれらの絵を思い出しながら、まどさんの詩  
を読んでみようと思いました。(K)

---

### 【3】全国のイベント紹介

---

#### ● 愛しきアフリカー絵本『ニジェール物語』原画展ー

絵本『ニジェール物語』（文/フクダヒデコ 絵/イヌイマサノリ 象の森書房  
2016年8月）の原画と、アフリカ関係の本を展示します。

日 時：開催中～8月6日（日） 午前9時～午後5時 月曜休館

会 場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館（東大阪市荒本北）

入館料：無料

主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

共 催：（一社）ニジェール物語製作委員会

◇ギャラリートーク

日 時：8月6日（日）午後3時～3時30分

講 師：フクダヒデコ（『ニジェール物語』作者）

定 員：当日先着20名、事前申込不要

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報につい

では、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

---

#### 【4】プレゼント

---

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『100時間の夜』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.83プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は8月10日(木)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

“天才”という言葉は好きでない、本人の“努力”を認めていないと思うから。でも、これが天才かと思わざるを得ない少年が現れた。プロデビューから29連勝を記録した中学3年の“天才棋士”の快進撃はすさまじく、社会現象とまで言われている。

いつまでも勝ち続けてほしいと期待は膨らむ一方だったが、負けた時には、どこかほっとする気持ちがあったのも事実だ。実はウチにも、孫が4歳の頃将棋にハマリ、よく一緒に指した盤と駒が残っている…。(A)

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

---

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---